



日本ボーイスカウト神奈川連盟川崎スカウトクラブ

当クラブ相談役 近江廣之さんはかねてより病氣療養中の処、7月23日逝去されました。
 スカウトクラブ活動の外に、所属団第56団は元より、川崎地区協議会、川崎地区賛助会、神奈川連盟と他方面で活躍されて参りました。今号は近江廣之さんの遺徳を偲び感謝を述べる場として、追悼特集号にいたしました。在りし日の姿を思い浮かべながらご覧頂けたら幸いです。
 (渡部)

過日ご逝去された第56団初代育成会長・団委員 近江廣之氏に対し長年、間近で氏のスカウティングに触れてきた当団関係者が、深い感謝の心で氏の思い出を綴りました。
 ご冥福をお祈りし、ここに捧げます。

[鬼の近江]

副団委員長 堂本暁生

私がシニアスカウト時代ある訓練キャンプに参加した時、近江さんが隊長でした。

縛材訓練、自然観察ゲームなど様々なプログラムを行いました。近江さんはそのプログラムに一生懸命、真剣にやらないと鬼の形相になり、太い丸太棒が我々スカウトのお尻に飛んできました。

キャンプ最終日、キャンプ場の丸太ベンチを修理する奉仕作業を土砂降り雨の中、我々は一生懸命、真剣に作業をしました。近江さんの丸太は飛んできませんでした。今思えば懐かしい思い出です。

[より良き試行錯誤]

団委員長 濱田雅弘

濱田がRSの時だったと思う。ある日、既に慣例となっていた「実行日当日には雨は降らない！」ハイキングの計画を作成中のこと、近江さんから今までになくごく普通に「君のハイキング計画書に関する指摘事項はない」

との回答を得た。戸惑いながら、「では、この計画書は合格ですか？」と近江さんに訊ねたところ、「君への質問は、君自身が私の質問を予測して既に先回りしてその答えを用意している。だが、山の天気の変化やルートを選択が計画通りに行かないことを前提とすべきで、その対策が大事ということ。つまり答えは一つで無いことの裏返しで【より良き試行錯誤】の結果がこの計画書なのか？それが質問だ。」

いまでもこの言葉を大事にしている。



[近江さんとの思い出]

団委員 鈴木 實

残念ながら、我が友であった近江廣之氏が、この世を去ってしまいました。まだまだやり残したことがあったと思います。

今日、過去をたどってみますと、まず新潟県東蒲原郡鹿瀬町（現在、阿賀町鹿瀬）に誕生しました。

隣町にはボーイスカウト東蒲原第1隊及び第2隊が創設されておりました。

鹿瀬町にも昭和28年頃から設立の話が出て、昭和29年9月に記念日として設立する事になりました。

又、“ちかい”をたてた日は昭和29年12月20日として、記念日までに初級スカウト章を取得しスカウト活動を始めました。日本連盟には、初期登録を昭和30年3月に致しました。

隊から団に昭和34年に変更となり、近江氏と私は昭和35年4月新潟県から神奈川県に転勤して神奈川連盟川崎地区川崎第3団に移籍しました。近江氏はCS副長を始めとし、年長隊（現VS）を設置する時に年長隊の隊長として、数々の功績を残したのは、皆様も知っての通りです。（私はCS隊長）

又、川崎地区委員長、県連理事として思い出も残してくれました。思い出されるのは、日本ジャンボリー大会での第1回ジャンボリー（軽井沢）、第2回日本ジャンボリー（滋賀）の事です。それと、第13回世界ジャンボリーでは日連の奉仕と、まだまだありますが書ききれません。



この写真は発隊式のもので、最上段向かって左から5番目近江氏、中央は私です

[初めての緊張]

RS 隊隊長 池村重信

近江さんと初めて会った時の事は今でも鮮明に覚えている。当時私は川崎第3団にBS隊から遅れて入団したため近江さんに未だ会ったことが無く「近江さんは怖いぞ」と話は聞いていて、正直“出来れば会いたくないなあー”と思っていました。

ある日団行事の初顔合わせで整列していると周りから「近江さんだ」「近江さんが来た」とただならぬ緊張感に包まれ、私もその空気に押されて入団してから初めて緊張してしまいました。“この人が噂の近江さんか”と思い、実際会ったら今度は“出来れば近づきたくないなあー”と思うようになりましたが月日が流れ白梅隊・GATCへ参加する毎にその距離が

近づき、その内に近江さんの家に通うようになりましました。色々な話を聞くことが出来、活動で悩んでいれば的確なアドバイスを貰うようになり次第に近江さんのやさしさが伝わってきました。しかし、初めての緊張が指導者になっても解ける事はありませんでしたが、それが大事なことだと教えられた気がします。

【“近江が” 吠える】

ボーイスカウト横須賀第12団育成会長
(公財)神奈川県少年少女育成指導協会専務理事
(スカウト会館) **薬袋 豊夫**

近江さんが会議や研修の場で“吠えた”のを覚えていますか？ 県連理事会で、県連独自のローバースカウト(RS)進歩記章「たちばな章」制定が提案されました。その時、『多摩川を超えたらば外すのか』と“吠えました”。東京と接する川崎地区委員長として、またRSの在り方として問題視したのか？ 「たちばな章」は、日の目を見ませんでした。

川崎地区の行事運営会合で、プログラムの検討が進み雨天時の対応に議論が集中した時、『雨は降らない』と“吠えました”。(川崎地区協議会長 木村耕三氏談)BS活動下、気象条件をどのように考慮するのか？事前考慮の範囲には、限界があるということかもしれません。

シニア(現ベンチャー)研修所、近江所長がコース運営のテーマと示した一つに、“がけん(我見)”があります。“がけん”と吠えました。Look Wide(我を捨てよう!)と解しました。研修中は、近江流木工も習いました。ひたすらナイフで材料を削る。2日でも3日でもただ削り続けて作品を作る。

ナイフやバツタに挑戦しました。運営スタッフも高橋幸夫氏、伊藤幸夫氏、渡辺和男氏、諏訪隆氏、富澤準治氏など多士済々、個性豊かな面々でした。

”吠える”近江さんと書きましたが言葉使いは大変に丁寧で、相手には必ずさん・君でした。例外はただ一人濱田さん(現BS県連理事長)。確か、濱田さんも近江さんとは呼ばず、隊長と呼んでいた記憶があります。

訃報に接したBS県連先達武井重利先生から『も

う一度、近江さんの“よいと巻けが”聞いたかった』と連絡をいただきました。

京急川崎駅で待ち合わせ、地下のスタンド喫茶で相談相手になっていただいたのが昨日のようです。

本当にお世話になりました。ありがとうございました。
令和4年8月5日



WB研修所シニア課程“がけん(我見)”スタッフ

【近江さんの思い出】

川崎地区協議会長 **境 紳隆**

私が初めて近江さんにお会いしたのは、多分昭和46年(1972年)に五日市町で開催された白梅隊の場であったと思います。当時の隊長・副長はどこの団も「怖い人達」でしたが、中でも有名だったのが川崎第3団(当時)の「近江隊長」でした。

「近江隊長」の威名は、その後展開されたゴールデンアックス・トレーニング・コースやウッドバッジ(以下WB)研修所等を通じて、川崎地区内は固より神奈川県連盟内に広く轟いて行きます。

私が、若き指導者(多分大学生)時代に受講したWB研修所シニア課程神奈川第10期では、近江さんの盟友でありライバル?でもあった稲葉睦美さんが所長で、近江さんは隊長でした。山中野営場に到着して一息入れた頃合に、いきなり近江隊長から「規律訓練」を約1時間徹底的に指導頂いたことを覚えています。「気を付け・休め・右向け右・左向け左・廻れ右・遅い・もっと早く・もう一度」から、「敬礼の形」や「スカウトサインの形」等を、参加者が皆徹底的に直され仕込まれました。それは、今では私の財産だと思える程影響力のある「規律訓練」でした。

私もその後、県連で指導要員を務めるようになりましたが、あの時の近江隊長のような「厳しい指導」をどうしても行うことができません。あの「規律訓練」には、目先の評価等度外視した、受講者の将来を見据えた深い愛情の籠った厳しさが有ったのだと、後になって気づきました。

近江さんは、1983年度から1987年度まで地区委員長として川崎地区の活動をリードされましたが、その間ボルチモア&川崎スカウト交流派遣を中心となって立ち上げる等、川崎地区のスカウト達の為に、本当に多くの財産を遺して下さいました。スカウト運動、即ちスカウト達の為に、本当に粉骨砕身された人生であったと思います。語弊があるかもしれませんが、スカウト活動は近江さんにとって、報酬こそ貰わないものの、或る意味本業であり天職であったのだと思います。そのような近江さんでしたから、奥様を始めご家族の皆様のご苦勞は如何ばかりであったかと拝察申し上げます。本当にご苦勞なされたことと存じます。

後輩である私達は、それぞれが近江さんの遺された「思い」を受け継いで参りたいと存じます。

永遠のスカウト近江廣之さん、どうぞ安らかに眠り下さい。そして、私達の行く末をどうぞお見守り下さい。合掌

[近江廣之さんを悼む]

川崎スカウトクラブ 百木幹雄

7月23日逝去の報、鋭くやさしい眼光を静かに閉じられ、尊い82年のこの道を歩み遠い未来へ旅立たれました。謹んで哀悼の意を表します。

長野、新潟を経て川崎に居住され50余年、少年時代からBS一筋に励まれ川崎の地で深く大きな足跡を残されました。当クラブでは近江氏、渡部事務局長、そして私、辰年(1940年)トリオと勝手に呼んで他の会員と共に楽しい活動を進めて来ました。

以下私との50余年の幾つかの(地区70周年記念誌にない部分)思い出を綴ってみました。

1. 出会い

川崎地区20周年記念祭が東芝体育館(現ラゾー

ナ川崎)で行われた時、10日位前に実行委員長(当時の地区コミ)より「全てを任せるから当日のことを頼む」と言われ企画、構成、進行を担当した時「檀上の来賓や地区関係者など気にせず、何かあれば何時でも言って」と励まされて落ち着いたこと。

2. G.A.T.C(ゴールデンアックスTC)

1973年(S48)、川崎近江隊長率いる神奈川第5隊が誕生し私も副長として2年半活動を共にしました。

目指すは第1回日本ジャンボリーで見た横浜ハーバートップの素晴らしさでした。湘北地区の稲葉隊長と朝まで打合せ、班として東北遠征、厚木谷太郎川での受験誌『高3コース』の取材“受験とスカウティングの両立の難しさ”をテーマに5頁に亘るグラビアに掲載され、被写体になったスカウトの結婚式でも披露されました。八丈島への遠征もあり、他に1975年(S51)第14回ノルウェーでの世界ジャンボリーに参加、RSの3団濱田氏、BSは5団の2名となりました。GAとして派遣に向けて少しでも支援しようと畑を借りてじゃが芋を植え付けました。

近江隊長は毎週下草取りなどを行い6月に全員で収穫の結果、小粒で売り物にならず各自自宅に持ち帰りカレーライスにしたとか……。

3. 野営行事委員会

1974年(S49)私が委員長時代近江氏より「川崎のスカウトを盛り上げ楽しい計画をしよう」と提案があり、私は地区記念祭の名称を[地区ラリー]に変えようと決定。11月2~3日“こどもの国”でBS1泊、翌日CSを呼ぶことに、営火場を囲んだ地区スカウトにジャンボリー並みに電気工事用のプロパンガス照明2台を設置。丘の上からの照明は程よく照らされて大変盛り上がりました。

翌日CSも参加してBSを含めた“各団対抗丸太切り大会”を実施、高津区から3等分にして運搬した木製電柱を一斉に切断、バトンタッチでも苦闘、一生懸命鋸を引いていました。

翌年は[技能運動会]5団井上氏宅の工作小屋へスタッフが集合、朝まで意見交換、大道具作成など行い生まれたのが“五角形トラック”、近くの大谷戸小学校へ運搬してライン引き等設営。

BS, SS は 2.5m の障害物（壁板）を突破、挑戦意欲は想像以上、次々挑むスカウトの逞しさを実感しました。横の近江氏の笑顔が印象的でした。

当時の野営行事委員会は GA と「一体となり濱田氏をはじめ長谷川氏、堂本氏、稲葉氏など現在の川崎地区の重鎮が集い終了後の青少年の家での反省会は全員笑顔でした。（無事故と寝不足で一杯なのに）



4. 川崎地区再編成について

2015 年 (H27) 水島コミを中心にコミグループで川崎地区の将来を見据えた再編成が検討されました。

私も近江氏も 60 年継続した団号については思い入れがありながらも全ては川崎地区スカウトの発展を考え意見交換、溝の口公園のベンチで 2 時間、我が家と近江家で 3 日間、熱い話が続ききました。

両者とも心の中は団を残したい、でも地区が進めることを真剣に捉え、前に進めるべきだと一致。

私の BS 時代をとらえ土曜日の午後テントを背負い班員と奥多摩キャンプに行くなど、現在を取り巻く環境の相違はあれど、私の主張する充実した班活動によって団は減少してもスカウト数を確保し大きく活動できないか等、指導者面、育成面など話し合い両者の相互理解となりました。私も他団から悪者扱いもありましたが団コミとしての 13 年間で最大のハイライトでした。

5. 川崎スカウトクラブ

10 年間の諸活動に立ち上げから取り組み諸行事を実施。機関紙「杖」の編集委員や行事部の取組などで協働。新潟県十日町のホテル観賞（2 度のリベンジ）、苗場山の紅葉はロープウエーからの美しさに無言で「きれいだ」と感心しておりました。



収穫祭のチャックワゴンについては我が家でコーヒーを飲んでいる時、詳しく説明がありフィルモントを含め豊富な国際経験から飛び出したものか？

サンマを焼く時は一人でやる、炊事も細かく荻原氏を呼び鳥料理に舌鼓、笑顔の一日でした。

6. 初めての涙

2011 年 (H23) 6 月第 1 回ボルチモア派遣隊長の井上一彦氏（太陽幼稚園園長、5 団）が逝去。

葬儀には地区役員・関係者、5 団、3 団 OB スカウト GA メンバー等が参列。濱田氏の指揮で“永遠のスカウト”を合唱、殆どが涙しましたが近江氏の涙を初めて見ました。若い時から行動し何も分らぬままボルチモア派遣等、思い出していたのでしょうか。

7. その他

・J リーグ観戦

等々力競技場で 10 試合程川崎フロンターレを応援、次男が都内強豪校の GK であること等で強い関心があり、得点チャンス場面では応援旗を振り大きな声で応援。私以上の熱さを感じた瞬間でした。

・中原区民祭に登場

私達の 5 団が出店の際、準備品持参で応援に来られ、家内が用意したエプロンを着けて“かき氷”を担当、右手をぐるぐる回して 70~80 杯程度作ってくれました。（感謝）

私も胃癌宣告を受けながら誰にも告げずにボルチモアの海岸を一緒に走ったり、相互に家を訪問しケーキとコーヒーで長談義など数々の思い出がよみ返ります。川崎地区に多くの富士スカウトを生み、豊富なアイデアで賛助会も育て熱い血を注いでくれた近江さん、永遠のスカウトよ、安らかに。

合掌

[近江さんとの思い出]

百木光恵（百木夫人）

人は色々な顔を持つものであります。

ここ一番という時は自分の信念を出し強気で立ちむかうことも必要なのです。BS 活動ではそこが問われて多くの指導者の人達を動かされていたと感じます。そのような人でも反面「え？」と思われるような事も沢山あり、趣味も多く持たれあれこれと教えて頂くことも沢山ありました。絵手紙では素晴らしい描写で心なごむ作品が多く、編み物なども器用に作られ、発想の世界ではあれこれと珍しい物を色々と作られていました。首から下げるペン入れケースや木彫りではナイフなど見事に作っておられました。

何事にも一本筋が通っていた人でした。

コーヒーとケーキをつまみにして多くの楽しいお話をしていました。楽しい思い出は人生を豊かにしてくれます。残された私の人生も頑張っけて往きたい処です。謹んで哀悼の意を表します。



[近江廣之さんに捧ぐ]

大谷 実

近江さんが亡くなったことを知り、貴方のスカウターとして色々なさったことを思い出します。

地区の行事、ジャンボリーでは必ず姿を見ることの出来る貴方でした。私も地区のお手伝いをするようになってからは色々と教えて頂きました。

アイデアを出し合っていく中でもうまく纏めて結論を出す名人でした。役割分担は個人に押し付けず得意とする分野毎に人を立て、不得手とする人には得意とする人を付けて育てて呉れました。このことにより得意とする分野を増やすことが出来たのは私一人ではないと思います。地区として新しく楽しい

ことがあると必ず貴方の名前を聞けました。

地区の行事では地区ラリーや訓練コースの白梅隊、G. A. T. C も一緒に活動させてもらいました。南多摩の米軍キャンプ場では何泊したことでしょう。

白梅隊は何回かここで行い、現市長福田氏もこの訓練会に参加しました。まだ日本連盟に高校生年代のシニア隊が無い時に神奈川連盟では、湘北地区、川崎地区で「シニア試行隊」が編成され、湘北・稲葉さん、川崎・近江さんが担当されました。

この試行隊の成功を見て、日本連盟でシニア隊が正式に発足しました。貴方はジャンボリーでは行事部、資材部の部長を務められ多くの方々の指導・管理をされました。7NJ カラーチームは湘北・川崎の G. A. T. C のメンバーで行ないました。この G. A. T. C からは、多くの「富士スカウト」が輩出されました。

訓練を受けたスカウト達は現在、指導者となり地区の柱となっています。これらの指導者を安心して天より見守ってください。川崎のボーイスカウトは生き続けます。近江廣之さんのご冥福をお祈りします。また近江さんを支えて下さった奥様にも感謝申し上げます。

[近江廣之さんを偲んで]

高安征夫

平成 25 年(2013)、当時は川崎区内には 3・21・30 の 3 ヶ団が活動していましたが、全国的にスカウトの減少傾向の続く中、川崎地区協議会からも川崎区の 3 ヶ団を 1 ヶ団に地区再編計画に基づき統廃合案が提示されました。活動拠点が隣接する 3 団と 30 団は近年市民祭りや歳末助け合い募金等々合同で活動する事で指導者間の交流は深めていました。

ボーイスカウト活動に精通した経験豊富で伝統ある 3 団を率いる近江団委員長と、かたや息子の入隊を機にスカウト活動に目覚めてから 40 数年、気がつけば団内では最年長となっていて、先輩方から引き継いだ 30 団の育成会長になっている私。統廃合の話が出てから近江さんと 2 人で話す機会があり、キャリアも経験も雲梯の差ですが、お互い自団の名称を残したいと思う気持ちは同じでした。特に近江さんにとっては伝統ある 3 団の名称を残したいとの

思いは人一倍強かったと思われました。

翌年（H26）、統合が正式に決まり新生団として「川崎第56団」が誕生。近江さんは新団の初代育成会長として統合の指令塔に、私は30団のスカウト・指導者の新団での活動を見届けて翌年退団。活動の場をスカウトクラブに移乗しました。

近江さんはスカウトクラブでもハイキングや研修旅行等でも豊富な経験や知識でいつも話の中心でした。体調を崩されコロナ渦の影響もありここ数年会うこともかなわず、事務長からの訃報の知らせに地区の歴史の証人の火が消えた思いです。御冥福を心よりお祈り申し上げ追悼と致します。 合掌

〔近江廣之さんを偲んで〕

小川芳郎

第一回日本ジャンボリーに県連盟は違えど、スカウトとして共に参加していたこと、百木さんを通してBS活動へのご尽力をお聞きしていたので、親しみを覚えた方でした。当間高原リゾートから紅葉の苗場ドラゴンドラのツアーで一緒した時の笑顔が思い出されます。ご冥福をお祈りいたします。

〔近江先輩を悼む〕

井村修治

推薦を受け、第一回日連派遣団の神奈川隊隊長に成らないかとの打診が参りました。

各県で独自に参加していた米国フィルモント派遣を日連が統轄することになった時、25年ほど前のことです。悩んでいた私の背中を積極的に押し、参加への道筋を立てて頂いたのが近江先輩（1994 神奈川フィルモント派遣団長）でした。

「観察・洞察力が並外れて鋭いな！」これが近江先輩への第一印象です。適切で的を得たアドバイスには今もって感謝しております。以降、フィルモント戦友というか、仲間意識を共有させて頂き、お陰様でスカウター活動の軸足を川崎に定め、かつ楽しく過ごさせて頂きました。そういえば、スカウトクラブ加入を勧めてくれたのも先輩です。

本当に有難うございました。 合掌

〔感謝〕

今村文彦

誠に寂しいかぎりです。謹んで哀悼の意をささげます。「近江さん、あなたは心の広い方、さして活動もしていなかった私によくお声がけをしていただきました。手書きの優しい年賀状が毎年私の大事なものの一つでした。寂しいですが、耐えて、あなたの分もスカウトクラブ活動に捧げることを約束します。」 合掌

〔中興の祖〕

渡部 公

近江廣之さんが病で倒れられてから2年半余、ご家族の願いもむなしく不帰の人となりました。

倒れられる前日に「杖」第34号の編集会議があり、終了後いつものように喫茶店でコーヒーを飲みながら雑談したばかりで「近江さんが倒れて入院した」と聞いた時は愕然としました。具合が悪い様子など微塵も感じなかったためでした。

スカウトクラブの準備段階から参画されて会の在り方等を示唆されました。多摩川に架かる橋の調査・報告書「橋から端まで」機関紙「杖」の命名なども近江さんの発案でした。2005年（H17）8月、川崎からボルチモア市第16回派遣隊が活動している時に観光目的の“近江グループ”でボルチモアへ行き、キャンプ場見学、派遣隊のさよならパーティー等に参加をしました。私はお土産にドルを全て使い果たして空港に着いても何も買えずにいた処、察した近江さんが冷たい水を1本買って呉れました。あの水のうまかったこと、いまだに忘れられません。

顧みますと近江さんは「企画力が抜群でそれを実現させる実行力があつた方」でした。現在の川崎地区の主要事業である「ボルチモア市スカウト交流」「地区賛助会」を実現させた根底にあるのは「スカウトのため」この一念の行動だったと思います。

かつて第3団団委員で地区役員だった小池安義氏が「近江君は3団中興の祖だよ」と言われていましたが、川崎地区にとっても『中興の祖』（地区を立て直した名君）だった方でありました。

合掌

[近江さんと絵手紙]

近江さんが以前「横須賀、葉袋さんの孫娘と絵手紙の交換が楽しいんだよ」と言われていたので葉袋さんをお願いして拝借しました。お孫さんが小学校1～3年生頃に交換した絵手紙ですが、そのお孫さんも現在は大学2年生だそうです。



編集後記

・今号は冒頭に書いた様に通常の構成から変更して近江廣之さんの追悼号にしました。

多くの方々からご寄稿いただき誠に有難うございました。これだけ近江さんが頼りにされ慕われていたこと“惜別”の思いが「ひしひし」と伝わって参りました。

・最終頁に絵手紙を載せましたが上手な絵で驚いた方もいると思いますが近江さんは「絵手紙教室」の先生でした。BSのみならず心の余裕を持つことの大切さを教えられます。

・タイトル絵は近江さんの絵手紙を切り抜きました。今の季節にピッタリです。(渡部)